

(3) 仁淀川を守るプロジェクト (講師: 環境活動支援センターえこらぼ 兼松方彦 氏)

- ・10月16日に、仁淀川河口への漂着ゴミの調査を実施した。場所は土佐市新居地区の仁淀川河口大橋の右岸側で実施した。前日に現地を見てみたが、結構たくさんゴミがあり、プラスチックゴミや缶、ドラム缶など、大量にゴミがあり、結構あきれた。またヨシの中に缶やピンなどがもぐりこんでいる。ハエ取りなど日用雑貨もある。漁に使ったもの、ツガニのかごなどもすぐく流れてきていた。
- ・通常のゴミ拾いは、拾って分別してトラックに載せてという段取りだが、今回は、1990年に日本に入ってきたやり方で、データを採っていく調査である。日本全国で、ボランティアの人たちが、4月、9月、10月に調査して、日本で取りまとめている。それをアメリカに送り、アメリカで全世界を取りまとめる。そして2、3月ごろになって報告として帰ってくる。という方法をずっと続けてきている。調査シートを使うが、ゴミの分類が60項目ある。1990年にやり始めたときは100項目あったが細かすぎるといふことで、60項目に落ち着いてきた。
- ・当日はまずゴミ拾いを行った。各グループに分かれてゴミを拾う人、調査票に記入する人と役割を分担した。「これなんやろうねえ？」と言いながら拾っていた。単に拾うだけではなくて、これが何だろうか？ということを考えながら拾った。建設会社の人たちも大勢参加してくれました。最後に秤で重さを計測し、ダンプ1台でも足りないくらいゴミを拾った。グラウンド整備のトンボもあった。
- ・ゴミ拾いのデータを調査票に記入したものを説明すると、実施箇所は200メートル幅で、大人47名が参加した。ゴミの総数は3939個。このうち一番多かったものは、飲料缶で957個で23%、次にプラスチックや破片(サランラップやおにぎりのラップ類、レジ袋の破片)で576個(14.7%)、次が飲料用ペットボトル、次が食品の包装容器(豆腐の入った容器、プリン容器など)、次が発泡スチロールの破片となっている。我々は、こういった調査を種崎海水浴場で10年くらい実施している。

今までのゴミ拾いは、「拾って汗かいてよかったね！」で終わっているが、あくる日に来たら、またゴミが溜まってきていることの繰り返し。これは“拾うだけではない！” “もっと何か手があるのではないか？”と感じて始めた。“ゴミの発生の原因を探ろう！” “元を断たないといけないんじゃないか？”ということデータ収集を始めた。

原因を探っていこうということで、この調査を実施している。仁淀川でびっくりしたのは、缶、ペットボトルがものすごく多かった。暮らしから出たゴミが結果として動物にも悪影響を及ぼしている・・・こういうことを招いているということ、やはりゴミというものをしっかりと考えながらやっていきたい。

## 仁淀川を守るプロジェクト（取り組み状況）

仁淀川河口にて漂着ゴミ調査(2010.10.16)

開会の挨拶と趣旨説明する井上会長



作業の注意点など詳細を説明する兼松さん



**今日は、単なるゴミ拾い活動ではありません！**

チームごとに仁淀川上流から流れてくるゴミを調べました！



缶などの飲み物系のゴミもよく目立つ！何で捨てるかなあ。。。。



木々の枝やなんかのゴミは腐るからいいが、不燃物は腐らない。



仁淀川河口にて漂着ゴミ調査 全景(2010.10.16)



2時間程度で、なんと集まったゴミの数は3939個！飲料缶が最多数であった。



ゴミは分類し、土佐市の協力により処分等させていただきました。